# 伊勢物語 ●筒井筒●

**あらすじ** 次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

| 第一段 | 第二段 | 第三段 |
| --- | --- | --- |
| 昔、〔①　　〕の近くで遊んでいた少年と少女が、年頃になり、互いに恋心を抱き、親たちの勧める〔②　　〕話も断って、思いどおり〔②　　〕した。 | 数年たって、女の親が〔③　　〕と、男は高安に新しい女ができた。自分を快く出発させる妻を不審に思った男が様子をうかがっていると、妻は旅ゆく夫を心配する歌を詠んだ。男は妻を〔④　　〕思い、以後高安の女のもとへは通わなくなった。 | 高安の女は男の来訪を待ち、恋い慕う歌を詠んだが、女が自分で〔⑤　　〕姿を見た男は通わなくなった。 |

**重要語句** 次の語句の(a)読みと、(b)意味を答えなさい。

(1) 気色
(a)
(b)

(2) 前栽
(a)
(b)

**重要文法** 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

**1** 傍線部の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

(1) 肩過ぎぬ（六四・11）

(2) 夜半にや君がひとり越ゆらむ（六五・4）

| | 意味 | 活用形 |
| --- | --- | --- |
| (1) | | |
| (2) | | |

**2** 傍線部の助詞「を」の種類として適当なものを、後ろの語群からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 出でて遊びけるを（六四・3）

(2) この男をと思ひつつ（六四・6〜7）

(1)　(2)

ア 格助詞　イ 接続助詞　ウ 間投助詞

**3** 「風吹けば」（六五・4）の歌に用いられている修辞法について、空欄にあてはまる語句を補って表を完成させなさい。

| | |
| --- | --- |
| 掛詞 | ■白浪が A<br>■竜田山の B<br>たつ |
| 序詞 | C が D を導く序詞になっている。 |

## 内容理解　次の各問いにそれぞれ答えなさい。

**1**「親のあはすれ」（六四・7）とは、どのようなことか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

**ア**　男の親が幼なじみの女と結婚させようとした。
**イ**　男の親が他の女と結婚させようとした。
**ウ**　女の親が他の男と結婚させようとした。
**エ**　女の親が幼なじみの男と結婚させようとした。

［　　］

**2**「本意のごとくあひにけり。」（六四・12）とは、どのようなことか説明しなさい。

［　　］

**3**「行き通ふ所出で来にけり。」（六四・14）とあるが、誰がどこに通ったのか説明しなさい。

［　　］

**4**「男、異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑ひて」（六五・2）の意味として適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

**ア**　男は、妻も浮気をしているから自分に冷たい態度を取るのかと疑って。
**イ**　男は、妻も浮気をしているから自分を快く送り出しているのかと疑って。
**ウ**　男は、自分が浮気をしているから妻が冷たい態度を取るのかと疑って。
**エ**　男は、自分が浮気をしているから妻も浮気をしているのかと疑って。

［　　］

**5**「君があたり」（六五・9）、「君来むと」（六五・12）の歌に込められた高安の女の心情として**あてはまらないもの**を次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

**ア**　男が住んでいる辺りをいつも見つめていたいと思っている。
**イ**　男がやって来る姿を見たいと思っている。
**ウ**　男が生駒山で迷わないかと心配している。
**エ**　男が来ないのではないかと心配している。

［　　］

**6**　次の文は、「男、住まずなりにけり。」（六五・13）に至った理由を、二人の女の違いに着目して説明したものである。空欄にあてはまる語句を補って文を完成させなさい。

A［　　］をして男をB［　　］歌を詠んだたしなみ深い大和の女に対して、高安の女は自分でC［　　］などたしなみのない様子であったから。